

「津波復興祈念資料館 閉上の記憶」

“いのち”への気づきを次の世代へ  
～地域住民がつくる持続可能な伝承活動～



2023年10月7日開催

# 武田真一氏講演会とセッショントーク





## 「言葉で命救えなかった無力感」 津波伝えた武田アナ、被災地で話す

編集委員・石橋英昭 2023年10月8日 14時34分



講演する武田真一さん=2023年10月7日、宮城県名取市閉上、石橋英昭撮影



元NHKアナウンサーの武田（たけた）真一さん（56）が7日、宮城県 名取市 閉上を訪れ、講演をした。閉上は12年前の3月11日、東京のスタジオから、街が津波にのみこまれる様を実況で伝えた場所だ。約200人を前に、あの日からの思いを語った。

武田さんは、地震発生の約1時間後からニュースを担当した。直後、名取川を遡上（そじょう）する津波をとらえたヘリ映像が入ってきた。

「黒い波が住宅や畑をのみこんでいます。車が」と言いかけて、言葉に詰まった。道路を走る車に、津波が追いつこうとしていた。目の前の人を助けられない。「言葉や放送は、なんて無力なんだと思った」と振り返った。

津波で多くの犠牲者が出た閉上には、罪の思いからなかなか足を運ぶことはできなかった。転機は2018年。同僚の案内で閉上の人たちと初めて会った。

「役立たず」との非難を覚悟したが、違った。逆に多くの人が震災のこと、震災前のことを語ろうとしていることに驚いたという。それ以来、穏やかな交流が続く。来るたびに心落ち着く場所になった。

今年2月にNHKを辞めフリーになった。今、こう考えるという。

「報道を離れ、単に1人の人間として大好きな閉上の皆さんに会いに来たい。こうやって『未災地』の者が被災地とつながり、喜びや楽しさを共有することが大事なのではないか」

講演後、津波で夫と息子を亡くした女性が、武田さんに「もう自分を責めないでくださいね」と、声をかける場面もあった。

講演は震災伝承団体「閉上の記憶」が主催した。（編集委員・石橋英昭）

2024年2月4日開催

# 篠山輝信氏 × 関上の記憶 セッショントーク講演会



# 「被災者の心伝える」

## 名取・関上篠山輝信さん講演

東日本大震災の被災地を伝える続けるタレントの篠山輝信さん(40)の講演会「伝える役割とは」が4日、名取市関上公民館であった。震災の伝承活動をする同市の一般社団法人「関上の記憶」の主催で、約50人が耳を傾けた。

篠山さんはNHKの番組



被災者の心を伝えたいと講演する篠山さん(左)と丹野さん

で2013年から毎年、被災地を旅し、関上地区には私的なものも含めて10回訪れて住民と交流する。「何年たっても失われたままの人の心はテレビの映像に映りづらい。どう伝えたいのか難しさを感じている」と吐露した。

昨年冬の旅では、関上の記憶代表の丹野祐子さん(55)が、震災で亡くした長男公太さん(当時13)の週刊少年ジャンプを毎週買い続ける姿に触れた。「心を絵として伝えられる」と感じたという。

「前に進んだことと一緒に進めない人がいることも伝えないと、いつしか取り残されてしまう。伝える責任を果たしたい。能登半島地震の被災者も今は先が見えなくても『一歩一歩』と受け止めてもらえるのではないかと述べた。

みやぎ

● 総合 ●

2024年3月11日開催

# 追悼のつどい～みんなのこと、わすれないよ～





## 「閑上の記憶」で追悼「今日の青空は天の子供たちからのプレゼントだと思う」

🗨️ 2 😊 😊

3/11(月) 16:42 配信



読賣新聞 オンライン



メッセージを書いたハト形の風船を飛ばす参加者（11日午後2時52分、宮城県名取市閑上で）

東日本大震災の発生から13年となった11日、津波で約800人の死者・行方不明者が出た宮城県名取市閑上（ゆりあげ）では、伝承施設「閑上の記憶」で追悼の集いが行われ、県内外から訪れた約400人が地震発生時刻に合わせて黙とうした。